

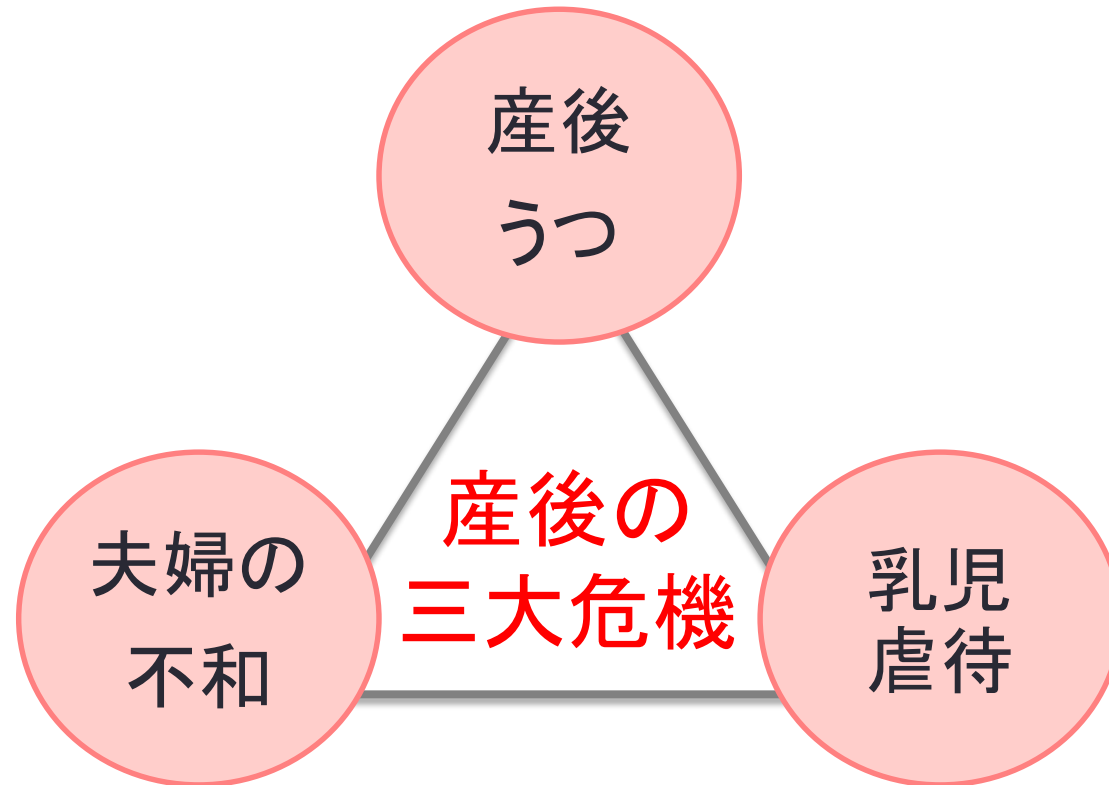
特定非営利活動法人 マドレボニータ





評価対象事業	産後ケア教室 4回コース(産後のボディケア & フィットネス教室)		
評価対象期間	2013年6月～2015年9月	受益者数	2,263名
事業概要	● 産後2ヶ月～6ヶ月の間の女性を主な対象に、4回を1クールとする1ヶ月間の産後のボディケア & フィットネス教室(以下、「産後ケア教室」)を実施。メニューは以下のとおり。 ①有酸素運動:落ちてしまった基礎体力を取り戻す体のケアを行う。 ②シェアリング:2人一組になってコミュニケーションをとる。自分の人生や仕事をどうしていきたいか、パートナーとどのような関係を築いていきたいか、3～5分間一方が語り、相手がマインドマップの手法で紙に表現するという心のケアを行う。 ③セルフケア:肩こりなどへの対応や短時間でも深く眠れる呼吸法など、日常生活でもできるセルフケアの方法を学ぶ。 ● 出産後は、体も心もぼろぼろになり、ホルモンのバランスが崩れ、大人とのコミュニケーションがなくなるため、言葉を失ってしまう。産後ケアを行うことにより、自分の言葉を取り戻し、産後に一番悩むポイントである、人生、仕事、パートナーシップの問題に対して、積極的に向き合えるようになる。 ● 産後ケア教室事業は、評価対象事業である4回コースの他に、単発講座形式での開催も行っており、主に自治体や企業と協働で実施する。マドレボニータでは、評価対象事業である産後ケア教室を含む活動を、事務局スタッフ(11名。理事含む)、インストラクター(24名)、支援者(会員:400名)、ボランティア(250名)、外部アドバイザー(経営面:5名)で実施している。 ● 産後ケア教室の受講者は年間2千～3千人で、その内約2～3%が会員になり、コミュニティに参加して、マドレボニータの事業のサポートを行っている。昨年度は産後ケア教室を全国約60箇所で317コース開催した。 ● 社会に「産前」ケアはあるが「産後」ケアはまだ少なく、取り組まれるようになっているのも産褥期(産後約6～8週)のケアが中心。産後の知識があると行動が変わる。行動が変わればその人のその後の生き方、働き方、パートナーシップが変わる。産後ケアの重要性をより広く知ってもらうためにも、産後ケアによって生じる効果を測って、社会的インフラとしての産後ケアの仕組みを作っていきたいと考えている。		

「産後」の家庭が抱えているリスク



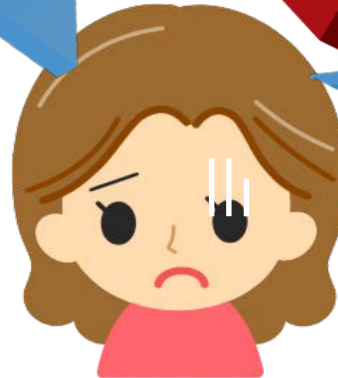
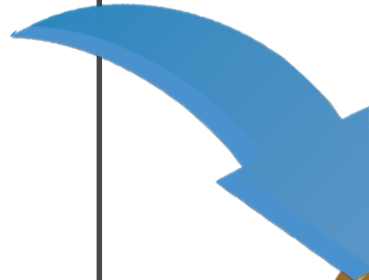
- 産前に有職の女性が、第1子出産で約6割 離職
- 女性管理職を増やすには、「子育て期の女性」が候補となり、対策が必須

このリスクを回避できなければ、「復職して活躍」どころではない

出産前

産後のダメージ

復職



評価事業：産後のボディケア＆フィットネス教室（産後ケア教室）

産後の「心」と「体」の健康に必要な「3つの柱」で構成されたプログラム

●120分×4回（1ヶ月間）

●全国12都道府県、約60箇所で開催

体力を
取り戻す



1. 運動

セルフ
メンテナンスの
習慣化



3. セルフケア



育休初期から
「働きたい」という
気持ちを再確認

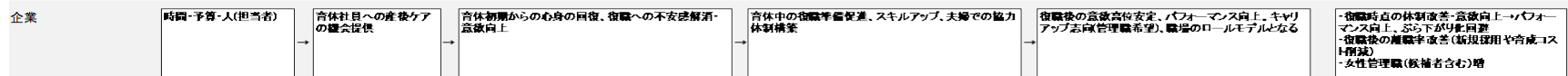
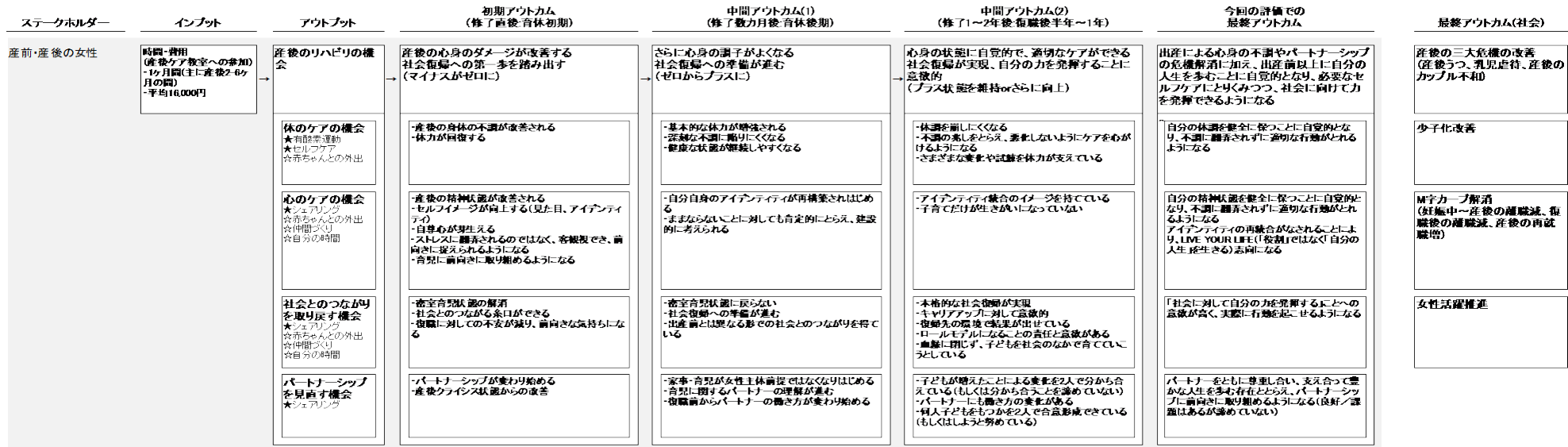
2.対話

切磋琢磨できる
仲間を得る

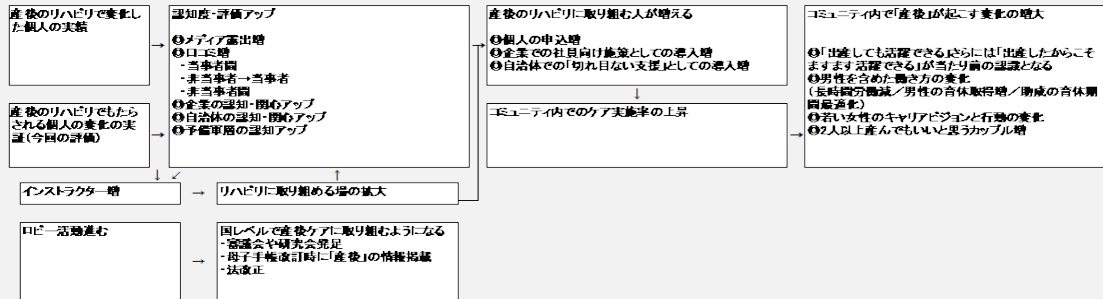


評価目的	出産した女性が「産後ケア教室」を受講することで起こる状態、変化を明らかにする →「産後ケアは出産したすべての女性に必要な社会的インフラである」ということをステークホルダーに理解してもらい、アクションを促す
本評価におけるステークホルダー	◎産前・産後の女性 ◎そのパートナー ◎企業（産育休中や復職後の女性社員を雇用） ○支援者候補となる個人／法人 ○自治体（産前・産後の女性を住民として抱える）

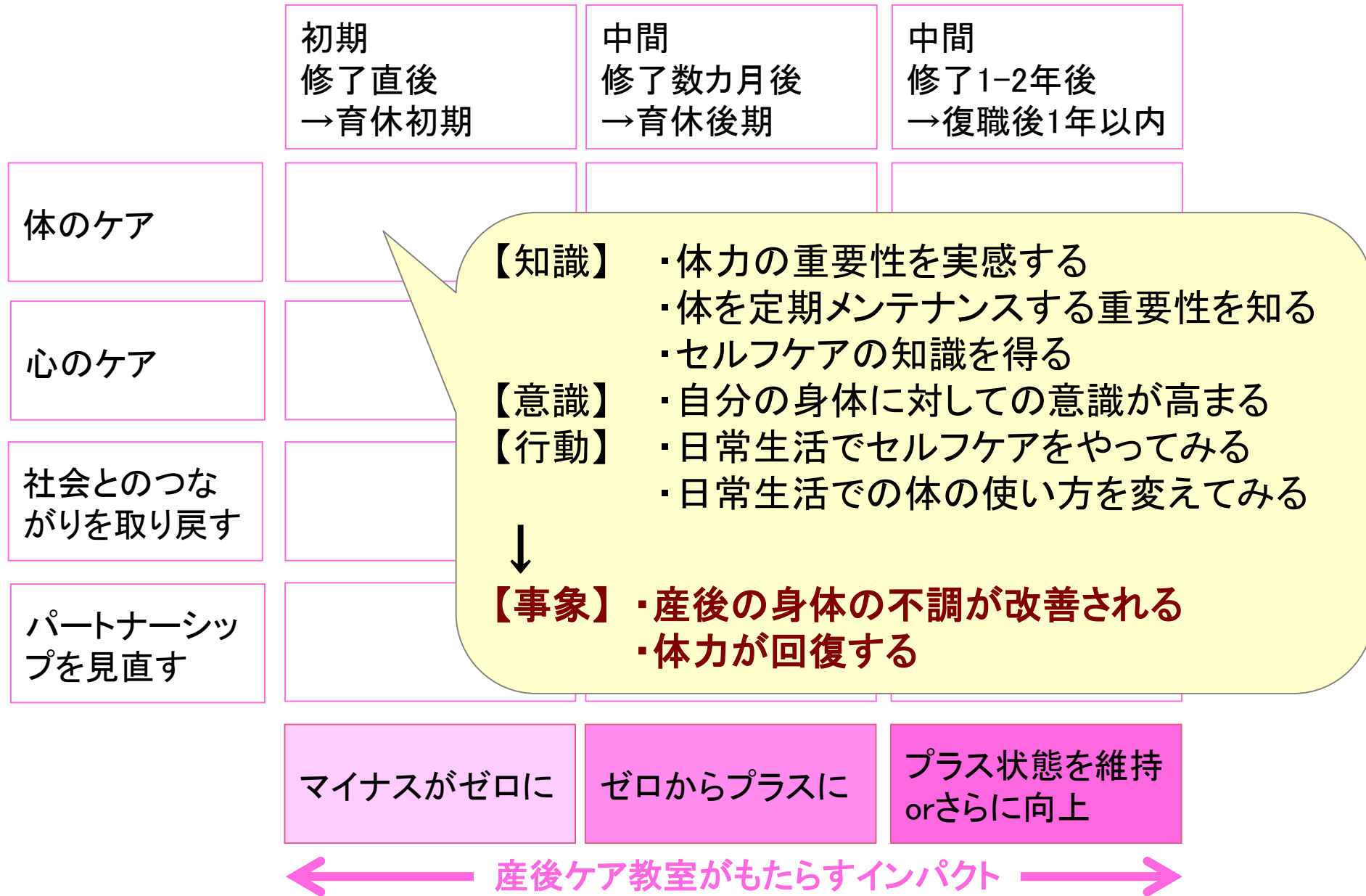
ロジックモデル



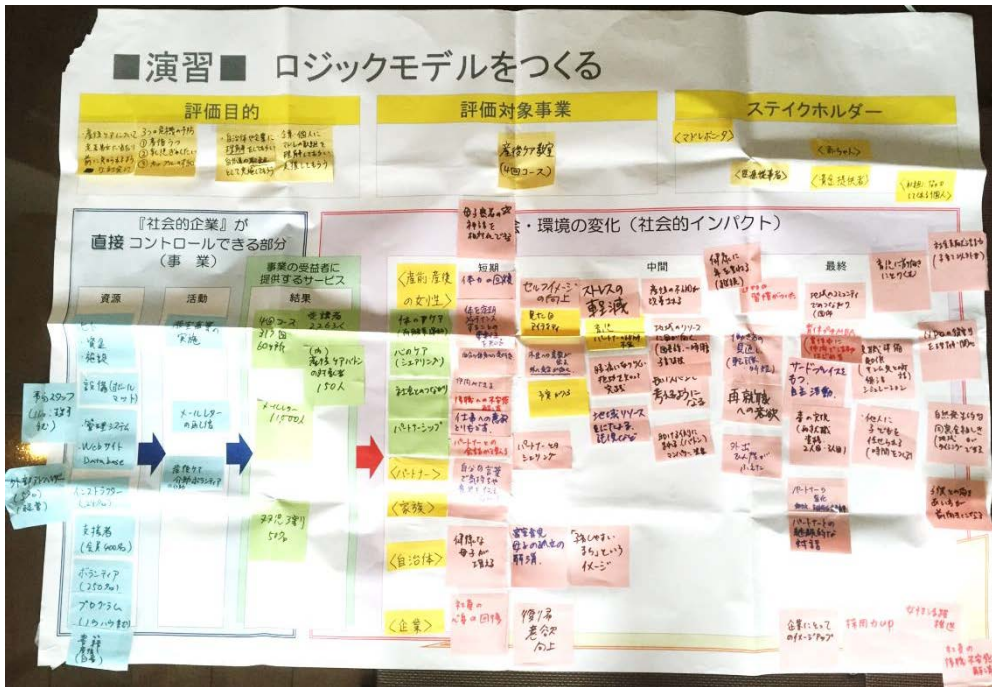
今回の評価の先に期待したいインパクト



ロジックモデル



ロジックモデル



7/11事前研修時のワーク



7/25 SVとのディスカッション
(年1回の事務局スタッフ合宿に
合わせ、全員で議論)

インパクトマップ

	結果・成果の別	ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
	①結果、②初期成果、③中期成果、④長期成果	誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで、どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
1	①結果	産前・産後の女性	教室のプログラ	メールマガジンの配信件数/HPの閲覧数/	
2	①結果	産前・産後の女性	マドレの存在・フ	チラシの配布数	
3	①結果	産前・産後の女性	産後ケア教室の	産前・産後の女	
4	①結果	企業	産後ケア教室導	教室の実施回数	
				導入企業数/参	
【事象】【知識】【意識】【行動】をもとに指標化					
(受講者)体のケアの機会					
5	②初期成果	産前・産後の女性	・産後の不調が改善され、体力が回復する	「事象」「知識」「意識」 化をした人の割合 (例) ・産後の不調が改善された(事象) ・体力の重要性を実感した(知識) ・自分の身体に対する意識が高まった(意識) ・日常生活での体の使い方を試してみた(行動)	受講者へのアンケート (例)産後の不調が改善されまし たか？ ※統計データがある場合は参考 値として活用
(受講者)心のケアの機会					
6	②初期成果	産前・産後の女性	・産後の精神状態が改善される ・セルフイメージが向上する(見た目、アイデンティティ) ・自尊心が芽生える ・ストレスに翻弄されるのではなく、客観視でき、前向きに捉えられるようになる ・育児に前向きに取り組めるようになる	「事象」「知識」「意識」「行動」「事象」のそれ ぞれの事項において、変化をした人の割合 (例) ・育児に前向きに取り組めるようになった(事象) ・自分を主語にして話すという考え方を知った(知識) ・自分の気持ちを大切にしようと思うようになった(意識) ・まわりの人と建設的な会話をするようになった(行動)	受講者へのアンケート (例)まわりの人と建設的な会話 をするようになりましたか？ ※統計データがある場合は参考 値として活用

結果・成果の別		ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④長期成果		誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
(受講者)社会とのつながりを取り戻す機会					
7	②初期成果	産前・産後の女性	・密室育児状態が解消できる ・社会とのつながる糸口ができる ・復職に対しての不安が減り、前向きな気持ちになる	「事象」「知識」「意識」「行動」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合(例) ・社会とのつながる糸口ができた(事象) ・復職に対しての不安が減り、前向きな気持ちになる ・社会とのつながりが断たれている状態だということを認識した(知識) ・社会と再びつながる意欲が湧いた(意欲) ・育休期間を復職準備に活かそうという意識がうまれた(意識) ・外出頻度が増えた(行動)	受講者へのアンケート (例)社会とのつながりが断たれている状態だということを認識しましたか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(受講者)パートナーシップを見直す機会					
8	②初期成果	産前・産後の女性	・パートナーシップが変わり始める ・産後クライシス状態から改善される	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合 ・パートナーシップが変わり始めた(事象) ・本来目指したいパートナーシップ(協力して豊かな人生を歩みたい)を認識した(知識) ・パートナーと向き合う勇気をもった(意識) ・パートナーとの会話が増えた(赤ちゃんの話や事務連絡以外の話題)(行動)	受講者へのアンケート (例)パートナーシップが変わり始めたと感じましたか？ ※統計データがある場合は参考値として活用

	結果・成果の別	ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
	①結果、②初期成果、 ③中期成果、④長期成果	誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
(企業) 育休初期からの心身の回復、復職への不安感解消・意欲向上					
9	②初期成果	企業	育休中の社員の心身が回復する	育休中の社員の心身の回復状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング
10	②初期成果	企業	育休中の社員の復職への不安感が解消され、復職への意欲が向上する	育休中の社員の復職への不安感の解消／復職への意欲の向上状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング
(受講者) 体のケアの機会					
11	③中間成果(1)	産前・産後の女性	・基本的な体力が増強される ・深刻な不調に陥りにくなる ・健康な状態が継続しやすくなる ・不調なときに体調を整えるための行動が取れる	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合(例) ・基本的な体力が増強された(事象) ・スポーツやセルフケアなど体を動かす喜びを知った(知識) ・健康を保つために体を動かしたりセルフケアをすることを意識したりした(意識) ・体を動かす機会をつくった(行動)	受講者へのアンケート (例)基本的な体力が増強されたと感じますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(受講者) 心のケアの機会					
12	③中間成果(1)	産前・産後の女性	・自分自身のアイデンティティが再構築されはじめる ・ままならないことに対しても肯定的にとらえ、建設的に考えられるようになる	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合(例) ・ままならないことに対しても肯定的にとらえ、建設的に考えられるようになった(事象) ・人に委ねることの大切さと豊かさを知った(知識) ・自分だけで何とかしなくてはいという意識を手放そうとした(意識) ・友人と前向きな意見交換をした(行動)	受講者へのアンケート (例)「ままならないことに対しても肯定的にとらえ、建設的に考えられるようになった」と感じますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用

結果・成果の別		ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④長期成果		誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
(受講者)社会とのつながりを取り戻す機会					
13	③中間成果(1)	産前・産後の女性	・密室育児状態に戻っていない ・社会復帰への準備が進む ・出産前とは異なる形で社会とのつながりを得ている	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合(例) ・出産前とは異なる形で社会とのつながりを得た(事象) ・具体的な社会貢献活動について知った(知識) ・復職に備えて今できることに取り組もうという意欲が高まった(意識) ・助ける側にも回ろうという意識がうまれた(意識) ・復職準備に取り組んだ(保活、学習、復職前面談など)(行動)	受講者へのアンケート (例)出産前とは異なる形で社会とのつながりを得たと感じますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(受講者)パートナーシップを見直す機会					
14	③中間成果(1)	産前・産後の女性	・家事・育児が女性主体前提ではなくなり始める ・育児に関するパートナーの理解が進む ・復職前からパートナーの働き方が変わり始める	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合(例) ・家事・育児が女性主体前提ではなくなり始めた(事象) ・パートナーシップに継続的に取り組んでいく意欲が湧いた(意識) ・女性側が抱え込みがちであることに気づいた(意識) ・人生や仕事についての話をした(行動) ・夫に委ねる部分を作った(子どもを預けるなど)(行動)	受講者へのアンケート (例)パートナーシップに継続的に取り組んでいく意欲が湧きましたか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(企業)育休中の復職準備促進、スキルアップ、夫婦での協力体制構築					
15	③中間成果(1)	企業	育休中の社員の復職準備が促進し、夫婦での協力体制が構築される	育休中の社員の復職準備の促進状況、夫婦での協力体制の構築状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング
16	③中間成果(1)	企業	育休中の社員の復職に向けたスキルアップが進む	育休中の社員の復職に向けたスキルアップの状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング

結果・成果の別		ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④長期成果		誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
(受講者)体のケアの機会					
17	④中間成果(2)	産前・産後の女性	・体調を崩しにくい ・不調の兆しをとらえ、悪化しないようにケアを心がけるようになる ・さまざまな変化や試練を体力が支えている	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合 (例) ・さまざまな変化や試練を体力が支えるようになった(事象) ・環境が変わり、余裕がないときこそ体力が重要なことを、身を持って知った(知識) ・健康を保つことに意識的・意欲的(意識) ・体を動かす機会をつくった(行動)	受講者へのアンケート (例)体を動かす機会をつくっていますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(受講者)心のケアの機会					
18	④中間成果(2)	産前・産後の女性	・アイデンティティ統合のイメージを持てるようになる ・子育て以外の生きがいを持っている	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合 (例) ・子育て以外の生きがいを持てた(事象) ・子どもを預けて働くことの罪悪感がない(意識) ・子どもに自分の生き様を見せたいという気持ち湧いた(意識) ・「人に委ね、感謝する」を実践した(行動)	受講者へのアンケート (例)子育て以外の生きがいを持てていると感じますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(受講者)社会とのつながりを取り戻す機会					
19	④中間成果(2)	産前・産後の女性	・本格的な社会復帰が実現できている ・復帰先の環境で結果が出せている ・ロールモデルになることの責任と意欲がある ・子どもを社会の中で育てていこうとしている	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合 (例) ・復帰先の環境で結果が出せている(事象) ・社会復帰のための産後ケアの効果を実感した ・愚痴を言っているだけでは終わりがたくない、受け身でいたくない、職場と対話したいという意識がある(意識) ・時間の制約があるからこそ集中・工夫する(行動)	受講者へのアンケート (例)職場と対話したいという意識がありますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用

結果・成果の別		ステイクホルダー	期待される変化	指標	データ
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④長期成果		誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どうやって測定するか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)
(受講者)パートナーシップを見直す機会					
20	④中間成果(2)	産前・産後の女性	・子どもが増えたことによる変化を2人で分かち合っている(もしくは分かち合うことを諦めていない) ・(女性が働きやすいように)パートナーの働き方が変わる ・何人子どもをもつかを2人で合意形成できている(もしくはしようと努めている)	「知識」「意識」「行動」「事象」のそれぞれの事項において、変化をした人の割合例) ・子どもが増えたことによる変化を2人で分かち合っている(もしくは分かち合うことを諦めていない)(事象) ・お互いにとって協力体制が人生に豊かさをもたらすことを知った(知識) 【意欲】 ・パートナーと家事・育児を協力して分かち合いたいという思いがある(意識) ・対話の機会を意識的に設けて、対話する(行動)	受講者へのアンケート (例)子どもが増えたことによる変化を2人で分かち合っていると感じますか？ ※統計データがある場合は参考値として活用
(企業)復職後の意欲高位安定、パフォーマンス向上。キャリアアップ志向(管理職希望)、職場のロールモデルとなる					
21	④中間成果(2)	企業	復職後の社員の意欲が高位安定し、パフォーマンスが向上する	復職後の社員の意欲、パフォーマンスの向上の状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング
22	④中間成果(2)	企業	復職後の社員がキャリアアップ志向(管理職希望)になり、職場のロールモデルとなる	復職後の社員のキャリアアップ志向(管理職希望)、職場のロールモデルとなれている状況	産後ケア教室導入企業へのアンケート／ヒアリング
(企業)・復職時点の体制改善・意欲向上→パフォーマンス向上、モチベーション低化回避、復職後の離職率改善(新規採用や育成コスト削減)、女性管理職(候補者含)増					
23	⑤長期成果	企業	モチベーション低化が回避できる	モチベーションの低い社員の比率の低下	産後ケア教室導入企業へのヒアリング
24	⑤長期成果	企業	復職後の離職率が改善される	復職後の離職率	産後ケア教室導入企業へのヒアリング
25	⑤長期成果	企業	女性管理職(候補者含む)が増加する	女性管理職(候補者含む)の増加状況	産後ケア教室導入企業へのヒアリング

アンケート調査等の概要

1. 受講者向けアンケート

- ・対 象 者： 4回コース受講者(2013年6月～2015年9月受講までの受講者:4,887名)
- ・実施期間： 2016年10月～11月頃
- ・質問項目： 初期アウトカム(修了直後)、中間アウトカム(1)(修了数カ月後:育休中)、
中間アウトカム(2)(修了1～2年後:復職後半年～1年)の3段階で設定した項目
について、本人主観による自己評価。産後のボディケア&フィットネス教室に参加
する「前」と「後」とで、受講者の意識や行動にどのような変化が生じたかを聴取。
- ・備 考： 上記と並行し、「with-without」の比較が可能となるよう、連携企業の産後ケア
事業の非対象者のデータの収集可能性を模索。

2. 受講者向けインタビュー

- ・ 上記1の受講者向けアンケートを補完。産後ケア教室受講した成果のモデルケースとなる
事例について、ケーススタディとして活用。

3. 企業向けインタビュー

- ・ 産後ケア事業導入企業に対し、導入の理由や期待していることについてヒアリング。
※導入から間もないため、「成果」のヒアリングは難しい。

アンケート調査等の概要

1. 受講者向けアンケート

- ・対象者： 4回コース受講者(2013年6月～2015年9月受講までの受講者:4,887名)
- ・実施期間： 2016年10月～11月頃
- ・質問項目： 初期アウトカム(修了直後)、中間アウトカム(1)(修了数カ月後:育休中)、
中間アウトカム(2)(修了1～2年後・復職後半年～1年)の3段階で設定した項目
について、本アンケートを実施する「前」と「後」
- ・備考： 上記と並行し、「with」事業の非対象者の

2016年9～10月

- ・アンケート項目を精査しながら、インパクトマップの「指標」を確定
- ・必要に応じ、ロジックモデルに立ち戻って修正

2. 受講者向けインタビュー

- ・上記1の受講者向けアンケート事例について、ケーススタディとして活用。

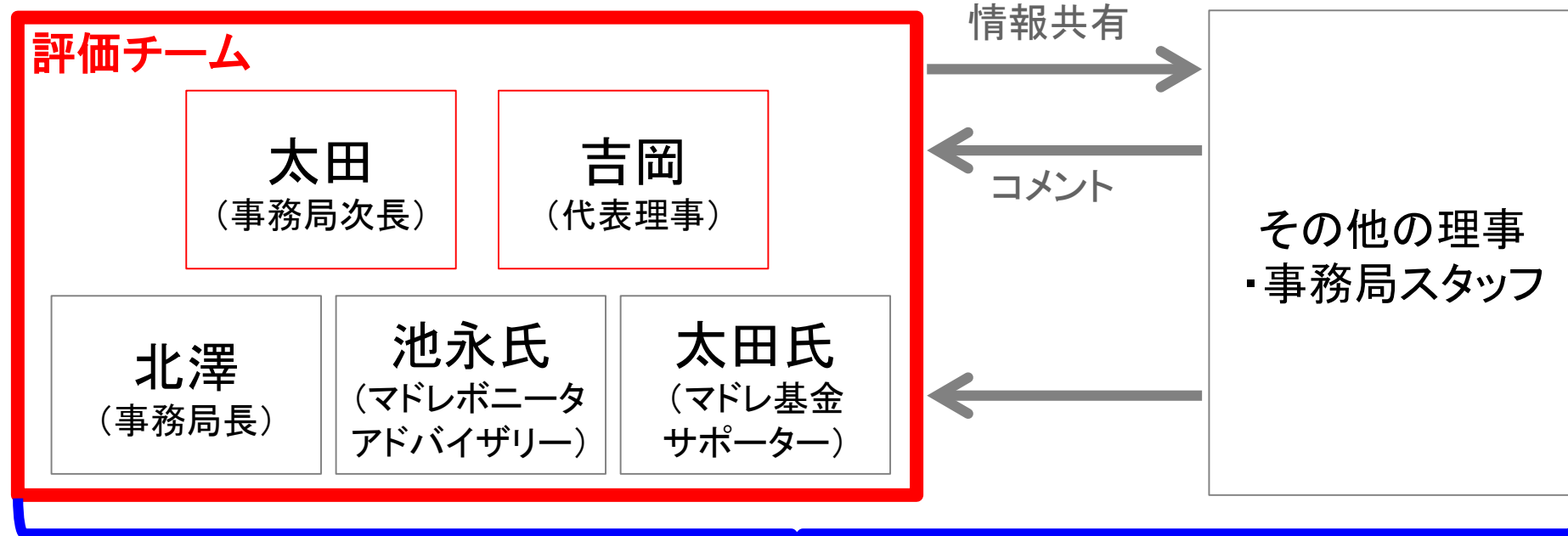
3. 企業向けインタビュー

- ・産後ケア事業導入企業に対し、導入の理由や期待していることについてヒアリング。
※導入から間もないため、「成果」のヒアリングは難しい。

振り返り

- ① 体制づくりと最低限の知識提供／
いかにメンバーを巻き込むか
- ② 「ロジックモデルづくり」のハードル
- ③ 評価目的の絞り込みの重要性
- ④ 伴走型支援の必要性和有効性

体制



情報共有には
Facebookグループ
(クローズド)を活用



体制

